

平成24年9月定例議会が9月4日に開会され、市長と教育長が行政報告を行いました。このページからは、その要旨を紹介いたします。なお全文は市ホームページで紹介しています。

はじめに

わが国の政局は先行きの見えない状況が続いています。が、今後の国の予算編成に大きな影響を与えるとも言える日本再生戦略が発表されました。

これには本市が重点的に取り組むべき課題も多く含まれており、今後、環境、医療、雇用などあらゆる面において政府の予算を積極的に活用し、本市の取り組みを加速させていきたいと考えています。

総合防災訓練を実施

9月2日に牛窓中学校グラウンドなどで、地震・津波を想定した第7回瀬戸内市総合防災訓練を実施しました。

東日本大震災を受け、初め



バケツリレーによる初期消火訓練

て国、県その他関係機関と合同で実施しました。避難訓練、消火訓練、防災ヘリによる救助訓練などを行い、牛窓地域の皆さんにも協力をいただき、有意義な訓練となりました。これからも各関係機関と連携して訓練を実施し、防災意識の向上に努めていきます。

防災・減災の取り組み

東日本大震災を受け、本市

の防災事業として前年度から自主防災活動促進事業を各地域で開催しています。

本年度は、邑久町玉津地区、牛窓町牛窓地区ですでに実施しており、12月にはゆめトピア長船で、長船地域の皆さんを対象とした防災講演会を開催する予定です。

また、その他にも自治会、コミュニティ単位でも、自主防災組織の結成や、活動の活性化を図るための事業を実施します。

地域での自主防災活動促進事業は、「日頃から、いかに地域の支え合い体制を構築し、災害時にどのように助け合うか」いわゆる「共助」を目的として実施しており、大規模災害発生時においての要援護者対策、そして被害者を最小限にとどめるための取り組みとして有意義であると考

えています。

まちづくり会議を開催

厳しい財政状況の中、将来に向けての各種事業のあり方や地域活性化のための住みよいまちづくりを行うことな



7月31日に行われた瀬戸内市まちづくり会議

ど、さまざまな行政課題の解決に向けて、有識者などの意見を聴き、市政に反映させるため、「瀬戸内市まちづくり会議」を設置し、7月31日に

いますが、地方交付税と合わせて地方の財源不足を保障する臨時財政対策債は減額となっており、地方交付税と臨時財政対策債の合計額は減少しています。

歳出の投資的事業の減少に伴い、国庫支出金および市債が大きく減少しています。市債残高は、これまでの借入抑制の効果から減少し、財政の健全化判断比率である実質公債費比率および将来負担比率も前年度よりも好転しています。経常経費の増加から経常収支比率が前年度の79.4%から83.2%へと3.8ポイント上昇し、今後、財政の硬直化が心配される状況です。

合併後の施設整備など、今後、大規模なプロジェクトが計画されていますが、合併市町村に対する地方交付税の優遇措置が平成27年度以降5年間で段階的に削減されること、合併特例事業債および過疎対策事業債の期限が延長されたことを受け、収支の均衡がとれる財政体質の確立を目

標に、本年度も中期財政見通しを立てる予定です。

錦海塩田跡地の活用

6月26日の第6回錦海塩田跡地活用検討委員会で、錦海塩田跡地活用基本構想が策定され、6月28日に検討委員会から提出されました。これを受けて、市は同日今後の方針を公表しました。また、7月18日には基本計画提案競技仕様書などの公表を行いました。提案競技の公募を開始しました。

8月20日から23日まで提案書類の受付を行い、8月下旬に第1次審査を実施しまし



約500㌫の錦海塩田跡地

用語の解説・備考

日本再生戦略 7月31日に閣議決定された平成32年度までの経済成長戦略。環境、医療、農林漁業の3つを重点分野とし、平均で名目3%、実質2%の経済成長を目指す。

第7回瀬戸内市総合防災訓練 マグニチュード9.0の東海・東南海・南海の三連動地震が発生し、震度6強を観測、沿岸部に大津波警報が発表され、3.5mの津波が襲来するとの想定で実施した。

瀬戸内市まちづくり会議 「平成23年度瀬戸内市中期中財政試算」で示された、平成32年度における収支不足の改善を計るための工程表を平成25年度末までに作成し、平成27年度予算に反映させることを最終目的とする。

経常収支比率

人件費、扶助費、公債費などの経常経費に、市税、普通交付税などを中心とする経常的な一般財源がどの程度充当されているかをみることに、財政構造の弾力性を判断するための指標。一般的に70〜85%の範囲が望ましい。

錦海塩田跡地活用基本構想

市民の安全安心を前提とし、「地域の活性化」「環境の保全」「文化の振興」という3つの基本理念を柱とする。錦海塩田跡地活用の方向性の大枠を示すために策定された構想。

基本計画提案競技

基本構想の趣旨を反映するとともに、メガソーラー発電所による発電事業を軸とした錦海塩田跡地の活用について、民間企業などから提案を広く募集し、基本計画の策定業務の委託先候補者、かつ基本計画に沿って事業を実施する事業主体の予定者を選定するために実施した提案競技。

モーモーターバスの利用実績

7月の利用実績は、利用登録者数1,058人、予約件数561件、延べ利用者数561人、実利用者数311人でした。1日平均の実利用者数は約10人であり、まだ利用者が少ない状況です。

今後、公民館などでの行事も含め、機会を捉えて利用促進のための広報活動を実施していく予定です。



瀬戸内市デマンドバス「モーモーターバス」

平成23年度普通会計決算

平成23年度普通会計の決算状況は、歳出面では前年度と比べて5.7%の減額となつています。これは、国の特例交付金事業の減少などにより投資的事業が大幅に減少したことによるものです。

なお扶助費、人件費などの義務的経費は増加しています。また、特別会計・事業会計への繰入金も大幅に増加しています。

歳入面は、前年度と比べて5.1%の減額となつています。市税は、若干増加していますが、地方交付税が増加して

た。提案書類の提出件数は8件でした。

9月上旬の第2次審査（プレゼンテーション）の後、委託先候補者かつ事業主体予定者の決定を行う予定です。

ごみ30%減量作戦

本年度はごみ減量作戦の取り組みの最終年度であり、5月には強化月間として、ごみステーションで市職員などがチラシを配付するなど、集中的に啓発を図りました。

ただ、残念ながら期待したほどの減量には至りませんでした。本年度は残り半年余りですが、引き続き目標達成に向けて取り組んでいきます。なお、本年度のごみ減量強化月間としての取り組みは、10月および来年1月にも実施する予定です。

上寺山楽々園の経営移譲

7月10日に、瀬戸内市養護老人ホーム上寺山楽々園移譲先選定委員会を開催し、移譲



移譲先が承認された上寺山楽々園

先として社会福祉法人センチュリー岡山が承認されました。

今後、同法人は現在地で養護老人ホームを運営しつつ、県の補助金の交付が決定した後に、邑久北池地内で新施設工事に着手する予定で、建設完了後の開所は平成26年4月の予定です。

不活化ポリオワクチン接種

予防接種実施規則の一部が改正され、ポリオの定期の予防接種に、不活化ポリオワクチンが導入されることになりました。今までの生ポリオワクチン

の接種回数は2回でしたが、不活化ポリオワクチンは、初回接種3回と追加接種1回の計4回となります。

配食による高齢者見守り事業

本年度の配食による高齢者等見守り事業について、10月からは、現在行っている配食サービスのコストを下げ、瀬戸内市シルバー人材センターが本年度から実施している生活支援事業（ちよいてごと）と連携して事業を実施します。

浄化センター増設予定地の活用

施設増設の時期まで、生涯スポーツ広場として利用したいと教育委員会から協議があった邑久浄化センターの処理施設増設予定地について、国の財産処分（目的外使用）の承認が得られたため、行政財産の使用を許可しました。長船浄化センターの処理施設増設予定地と併せて、有効活用が図られることを期待しています。

前島フェリー造船への補助

現在、牛窓と前島を結ぶ定期航路において前島フェリーを運航する牛窓町緑の村公社では、老朽化が著しいフェリーの新造船を計画しており、市からは、2億円の補助を行う予定です。



老朽化した「第1唐琴丸」

病院事業管理者の交代

一身上の都合により、谷崎眞行前病院事業管理者が8月末をもって退職しました。なお、前副院長である福田和馬医師を新たな病院事業管理者として9月1日付で任命

しました。

平成23年度病院事業会計の決算については、約1、900万円の赤字となりました。入院患者の減少が大きな原因です。

裳掛診療所について、岡山大学病院から医師派遣が困難であり8月末で引き揚げたい旨の連絡がありました。

その後、民間病院（岡村一心堂病院）からの申し出があり医師の確保ができたため、市民病院と民間病院からの医師派遣により診療を行っています。

8月以前は週3日の診療でしたが、9月からは半日の診療日があるものの週5日の診



裳掛診療所

療となっています。

火災救急の概況

火災の状況については、本年1月から7月までの火災件数は10件で、前年同期より4件増加しています。死傷者については、前年は0人でしたが本年は残念ながら1人が負傷しています。

救急の状況ですが、同じく7月末までの出動件数は983件で、前年同期より7件の増加となっています。

消防団の活性化

瀬戸内市消防団は、災害から市民の生命・身体および財産を守るため、日夜精力的に活動を続けています。

消防団の活性化については、昨年10月から活性化検討委員会での検討を重ねています。消防団員のサラリーマン化や団員確保が困難な状況の中で、団員数の少ない分団では将来ますます初動対応力・機動力の低下が懸念されること

から、分団の再編を検討しています。また、同時に分団機庫の位置、整備などについても検討を進めています。年末までには、検討結果を示し、早ければ来年1月から新体制で活動を行っていく予定です。

図書館運営と新図書館整備

新図書館整備について市民の皆さんの意見を聞く「としよかん未来ミーティング」の4回目を7月20日に開催しました。平日の夜間の開催でしたが、中学生を含む47人の参加があり、活発な意見交換を行いました。

現図書館の運営については、移動図書館の夏休み特別巡回として、放課後児童クラブやスポーツ施設への貸出、また資料が不足している中学校の「学級文庫」への団体貸出などを行いました。移動図書館車「せとうちまーる号」を利用して、子どもや教職員に多くの本を貸し出しました。



第4回としよかん未来ミーティング

いじめの実態調査

滋賀県大津市における中学生2年生の自殺という痛ましい事件を受けて本市では、7月11日に市内全小中学校に対し、いじめの実態について聞き取り調査を行い、現時点で学校が認知しているいじめはないことを確認しました。

いじめの未然防止、早期発見および早期対応に向け、教職員が「いじめはどの学校にも、どの子にも起こり得る」という視点で児童生徒の現状をしっかりと把握するよう各学

不活化ポリオワクチン

ポリオウイルスを不活化し（II殺し）、免疫をつくるのに必要な成分を取り出して病原性を無くしてつくったワクチン。

ウイルスとしての働きはないので、ポリオと同様の症状が出るという副反応はない（ただし、発熱などの副反応が生じることはある）。

生活支援事業

公益社団法人瀬戸内市シルバー人材センターが日常生活でのちょっとした困りごとを支援する事業。

対象世帯は、70歳以上の高齢者のみの世帯、介護保険の要支援・要介護認定者のみの世帯、障害者（手帳保持者）のみの世帯、その他支援を必要としている世帯で、サービスの利用料は100円または500円。

前島フェリー

牛窓と前島を結ぶ定期航路は、平成5年に就航した「第7からこと」と昭和57年に就航した「第1唐琴丸」の2隻のフェリーで運航している。

病院事業管理者

公立病院の開設者である首長から権限を委譲され病院事業を経営する特別職。

瀬戸内市消防団

1団16分団実員518人で組織される（平成24年4月1日付け）。

火災の発生時における消火、警戒、事後処理などの活動、地震、風水害時における水防活動、人命救助、災害防衛・財産保護などの活動、通常時における火災予防広報活動、災害の警備警戒、各種訓練などの活動を行う。

としよかん未来ミーティング

市で建設準備を進めている新図書館を、暮らしの中で役に立ち、愛され、魅力的な場所にするために、市民などと意見交換を行う会議。

いじめ

当該児童生徒が、一定の人間関係のある者から、心理的、物理的な攻撃を受けたことにより、精神的な苦痛を感じているもの。（文部科学省による定義）